

公開用

2023年定時社員総会 第1・2号議案

2023年2月12日

社員各位

一般社団法人 Youngsters on the Air Japan
代表理事 須田 璃久

2022年事業報告および決算報告

下記の通り、2022年に行った事業および2022年の決算を報告します。定款第21条の規定に基づき、2023年定時社員総会での承認決議をお願いいたします。

記

1. 2022年事業報告(第1号議案)

《2022年に実施した主な事業一覧》

- 3月1日 一般社団法人 Youngsters on the Air Japan 設立
- 4月10日 法人化について YouTube にて一般発表、プレスリリース
(参考: <https://www.youtube.com/watch?v=5gqYF1-RreY>)
- 6月30日 『2023年世界無線通信会議(WRC-23)に向けた我が国の考え方(案)にかかる意見募集』に対する意見提出【基】
- 7月16～17日 関西アマチュア無線フェスティバル 出展【広】
- 8月1日 記念局 8N2YOTA の開設【運】
- 8月6～13日 YOTA Summer Camp Croatia 2022 への日本チーム参加
(YOTA Japan としての参加支援【運】)
- 8月20～21日 アマチュア無線フェスティバル(ハムフェア) 出展【広】
- 10月15日 わかものハムの集い 開催【企】
- 10月29～31日 CQ World Wide DX Contest SSB 部門(YOTA Japan が盾をドネーション)【運】
- 11月26～28日 CQ World Wide DX Contest CW 部門(YOTA Japan が盾をドネーション)【運】
- 12月中 December YOTA Month への参加【運】
- 12月4日 ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線制度改正についての公開討論会
開催【基】

12月16日 『ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用等に係る制度改正案に対する意見募集』に対する意見提出【基】

(凡 例) 【運】 運営委員会 【企】 企画委員会 【技】 技術委員会
【基】 基礎・戦略委員会 【広】 広報委員会

《事業詳細》

YOTA Japan の事業は委員会単位で行っているため、詳細は各委員会の活動報告書(添付)を参照されたい。

《総括》

YOTA Japan は、2017年12月に発足し、翌2018年3月の Youth Contesting Program を初めてのイベントとして開催したのが始まりである。それから数えて、活動5年目の節目となる2022年は、3月1日の「一般社団法人 Youngsters on the Air Japan」設立に始まり、若者アマチュア無線家の国際大会合宿である YOTA Summer Camp への5年ぶりの日本人参加、December YOTA Month への「YOTA」記念局での本格参加など、たいへん象徴的な年となった。

特に、YOTA Summer Camp への参加については、昨今の困難な情勢にも関わらず参加を決断し、一週間のプログラムをこなして無事に帰国した二名の若者(会員)に対し、YOTA Japan として最大限の敬意と称賛を表すところである。

また、一般社団法人設立に伴って新たに導入した委員会制度により、アマチュア無線の諸分野における多種多様な活動が若者(会員)の手によって活発に行われたことも、特筆に値する。

2. 2022年決算報告(第2号議案)

別紙のとおり、2022年の決算を報告する。

以上

公開用

運営委員会 2022 年活動報告書

2023 年 2 月 4 日

YOTA Japan 運営委員会

下記の通り、運営委員会の 2022 年の活動を報告します。

記

1 運営委員会の概要

運営委員会は、理事会を補佐し、YOTA Japan の運営全般に関わる委員会である。特定の委員会に属することができない活動、たとえば、YOTA Japan 記念局の開設や運用、世界的なコンテストへのドネーション、欧州 YOTA (IARU R1 Youth Working Group の主催するプロジェクト) との協力などを管轄する。

2 2022 年の活動内容

YOTA Summer Camp Croatia 2022 への日本チーム参加支援

2022 年 8 月 6 日から 13 日にかけてクロアチア Karlovac で開催された、YOTA Summer Camp Croatia 2022 (IARU R1 Youth Working Group 主催、Hrvatski Radioamaterski Savez (Croatian Amateur Radio Association) 共催) へ、YOTA Japan 会員である若者 2 名 (JO4ISY、JE6WUD) が参加した。YOTA Japan はこの 2 名に対し、金銭的支援を含む全面的なサポート、及び広報活動を実施した。

YOTA Summer Camp Croatia 2022 参加に関する成果報告は、別添の資料を参照されたい。

記念局 8N2YOTA の開設と、December YOTA Month への 2 局参加

2022 年 8 月 1 日から 2023 年 1 月 31 日にかけて、YOTA Japan では記念局 8N2YOTA を YOTA Japan 事務局に開設し、YOTA コンテストを含む DX コンテスト参加や、ハムフェア等での PR 運用を行った。8 月 9 日には、YOTA Summer Camp Croatia 2022 で運用されている記念局 9A22YOTA および 9A1YOTA との交信も達

成した。

さらに、2022年12月1日から12月31日に開催された December YOTA Month (IARU R1 Youth Working Group 主催)に、8N2YOTA および 美作 DX 倶楽部 (JE4YMO、代表：JN4MMO) による 8N4YOTA の2局で参加した。また、December YOTA Month 期間中、8N2YOTA の移動する局は若者による持ち回り運用を実施し、広島県広島市 (会員個人)、福岡県北九州市 (九州工業大学)、愛知県名古屋市 (東海高等学校・中学校) での運用を行った。

運用の実績は以下の通りである

- 8N2YOTA (移動しない局 (静岡県裾野市)・移動する局)
 - 交信局数 2,897
 - うち December YOTA Month 期間中 1,159
 - 運用したオペレーター 24名 (すべて若者)
- 8N4YOTA (移動しない局 (岡山県美作市))
 - 交信局数 261
 - すべて December YOTA Month 期間中
 - 運用したオペレーター 6名 (すべて若者)

CQ World Wide DX Contest への盾のドネーション

世界最大のアマチュア無線通信競技である、CQ World Wide DX Contest は、SSB 部門、CW 部門のそれぞれに、26歳未満の若者を特別枠で表彰する Youth Overlay Category を2021年から設けている。YOTA Japan は、2021年から、SSB 部門、CW 部門のそれぞれで、Youth Overlay Category でアジア第1位になった参加局に記念盾をドネーションしており、2022年においてもこのドネーションを実施した。

なお、2023年1月末現在、確定スコアは未発表であるが、審査前スコアによれば、2022年の Youth Overlay Category アジア第1位の局は、以下の通りである：

- ・SSB 部門 …… 5B4AQT (キプロス)
- ・CW 部門 …… BD4VGZ (中華人民共和国)

勉強会『YOTA Japan アマチュア懇話会』の開催

『YOTA Japan アマチュア懇話会』は、アマチュア無線に関する諸テーマについて、30分前後のスライド講演と、それに関するディスカッションを行うオンラインの勉強会である。若者アマチュア無線家や、若者をサポートするアマチュア無線家を合わせて、毎回10～15名ほどの参加があり、また年齢の垣根を超えた交流の場ともなっている。

2022 年間は、アマチュア懇話会は以下の三回を開催した。

- 6月4日
『Flavors of Amateur Radio Emergency Operations in the USA』
- 8月27日
『SO2R 高度なコンテスト運用へ』（Contest Workshop との合同開催）
- 10月1日
『学生組織運営における冷静と情熱の間 ―生涯学習社会と人間性の陶冶―』

3 2023 年の活動予定

2022 年に引き続き、記念局 8N2YOTA を用いた PR 運用や December YOTA Month への参加を行い、若者への楽しいアマチュア無線運用の機会を提供し、若者自身のアマチュア無線活動や YOTA Japan 活動への参画に対するモチベーションアップを目指す。

また、CQ World Wide DX Contest へのドネーションや、欧州 YOTA との連携を引き続き進めていき、YOTA Japan が世界の中で「若者アマチュア無線家の組織」としてのポジションを確立できるよう、引き続き努めていく。

以上

クロアチアサマーキャンプレポート

JE6WUD
JO4ISY

はじめに

コロナ禍で 2019 年以来延期が続いていた YOTA サマーキャンプの開催が決定し、日本から派遣枠の募集が行われることを知ったのは YOTA JAPAN の Slack で 2021 年 4 月のことでした。日本ではまだ新型コロナウイルスの情勢も不透明かつ、ロシアによるウクライナ侵攻に伴うヨーロッパ方面の情勢不安もあり、本当に参加できるかは半信半疑でしたが、過去のキャンプの話を伺う機会が以前にあったこと、せっかく海外で同年代の無線家とアマチュア無線ができる機会ということで、後先を考えずに即答で参加を希望しました。

日本からの参加枠は 2 人で、4 人の応募があったとのことですが結果的に辞退もあり 2 名の希望者、JO4ISY さんと、私、JE6WUD が派遣されることとなりました。JO4ISY さんは私の大学の先輩であり、自分をアマチュア無線という趣味に引き込んだ張本人で付き合いも長いので、初めてのヨーロッパも二人三脚で安心でした。JO4ISY さんはチーム JA のリーダーとして、主催の IARU ユースワーキンググループとのメール交渉や事前準備を担当していただきとても助かりました。

クロアチア渡航

クロアチアでのキャンプは 8 月 6 日から 13 日の 7 泊 8 日の日程での開催でした。日本とクロアチアの時差はマイナス 8 時間。日本からは乗り換え込みで 22 時間の飛行機移動です。今回は渡航費用を自己負担し、キャンプ自体の参加費用は 15 ユーロのみで、現地でのキャンプに関する宿泊、移動、食費はすべて負担無しでした。YOTA JAPAN からの旅費の負担は 1 人あたり 30000 円でした。

キャンプに関する事前情報はあまり無く、キャンプのしおりにあたる PDF が送られてきたのみで、現地で無線運用が可能かについても不透明なままの渡欧となりました。

クロアチアは欧州 CEPT 締結国で、日本の第一級アマチュア無線技士の免許を取得していれば、相互運用協定の下で運用することができます。各総合通信局が発行する無線従事者免許の英文証明が必要です。JO4ISY さんは 1 アマを所持されているので、海外運用に関して問題ありませんでしたが、筆者は第二級アマチュア無線技士ですので現状では現地で運用が不可能でした。最短で試験に合格しても免許証の受け取りが間に合わない日程でしたので、(米国渡航を目的とする免許発行との本来の趣旨には反することを承知の上で)FCC 試験を受験することにしました。コロナ禍で FCC 試験は zoom でのリモート試験に対応しており、zoom でアメリカ人の試験官に見守られながら General 級に合格し KD9VHE というコールサインを取得することとなりました。

また、現在では入国制限が緩和されていますが、2022 年 8 月の時点では日本に入国する際に相手国出国 72 時間以内の PCR 検査陰性の証明の提出が必須でしたので、少ない現地渡航情報を参考に

しながらの準備となりました。結果的に出国と欧州入域に対しては制限は全く無し、日本入国に対しては飛行機登場 72 時間前までの陰性証明が必要でしたが 2 人共無事に帰国することができました。

クロアチア、ザグレブ国際空港までの日本からの直行便は高価だったため、一度ハブ空港であるカタールのハマド国際空港で乗り継ぎを行うカタール航空便に成田空港から搭乗し、キャンプ内で発表予定のスライド資料などを作りつつ 22 時間のフライトを終えクロアチアに到着しました。

空港の入国ゲートで現地のキャンプチームに合流。会話は全て英語で行います。ここで他チームの飛行機の到着を待ち、キャンプに移動しました。屋外でマスクの着用を続けていると、マスクを外しても構わないのにと促されたのが印象的でした。

キャンプ地のカルロヴァツは首都ザグレブから高速道路で 1 時間程度離れた郊外のビール醸造で有名な街です。キャンプは市内中心部の古い建物を改装したホステルを一棟貸し切って開催されました。ホステル前庭には様々な短波用のアンテナが各バンド用意されており、一見すると仮設アンテナには見えませんが、移動運用のためのものということで大変驚きました。キャンプに到着すると、もうすでに先に欧州各地から到着した若者により、現地の YOTA 記念局が既に運用されていました。早速荷物を部屋に置き、おっかなびっくり会話の輪に入りながら局の紹介を受けました。

YOTA 局運用とアマチュア無線

今回の YOTA サマーキャンプでは YOTA サフィックスを冠した記念局が合計 7 局設立され、各移動場所からアクティブに運用されました。また、9A22YOTA 局はキャンプサイトから運用され、期間を通じて自由に運用することができました。

キャンプ 3 日目には YOTA JAPAN で開設された記念局 8N2YOTA とスケジュール QSO に成功。裾野市の富士山シャックに移動された JR2KHB 須田さんと、伝搬予測を見ながら 18MHz SSB でかろうじて QSO に成功した成功したのち、9A1YOTA コールでも 14MHz SSB にて QSO を行いました。

各記念局は

- 9A22YOTA キャンプサイトから全期間で運用
- 9A1YOTA リモートステーション,全期間で運用
- 9A2YOTA IOTA 対象地より 8/8 のみ運用
- 9A3YOTA SOTA 対象地より 8/10 のみ運用
- 9A4YOTA POTA 対象地より 8/10 のみ運用
- 9A5YOTA COTA 対象地より 8/12 のみ運用
- 9A100QO 静止アマチュア衛星 QO-100 向けに全期間で運用

といった日程で運用されました。

このキャンプはホステルでのセミナーやグループワークを行う日程とクロアチア各地で観光と移動運

用を行う日程が交互に行われました。

グループワークで印象に残ったプログラムがいくつかあります。

電子工作のプログラムは複数日に分かれており、Arduino をベースにした送信機のキットが用意され、それを各自でカスタマイズしたのちに最終日の ARDF で実際に公園に隠し、送信機として使用するというものでした。ラビットと呼ばれた小電力の送信機は拡張性を多分に意識した設計となっており、早く組み立てが終わった人は自分のアイデアで改良を進めることができるようになっており、これは優れた企画だと思いました。また、私たち日本チームの二人は ARDF を体験したのが初めてだったので、フィールドの中で歩き回りながら、時に友人と協力しあい楽しく体験をすることができました。

また筆者は日本ではアマチュア無線衛星の運用を中心に行っており、欧州の地でアマチュア衛星を介して交信をすることが出来れば嬉しいと思っていました。実際に現地を訪問すると、サテライト用の方位仰角ローテーターとデュアルバンド八木といったセットアップが用意されており、歓喜したのをよく覚えています。しかし、欧州ではアジア地域とは異なり、ローテーターとリグ周波数をフル PC コントロール下で運用することが主流のようで、リグコン用の PC の同期が不調で QRV できない機会が続きました。最終的にキャンプ 2 日目に Krk 島から IOTA 運用を 9A2YOTA コールで行った際、複数人で協力し合い、ローテーター制御と VFO コントロールを手動で行い G0IIQ と CAS-4A の SSB で QSO を行ったのが最初のオンエアの機会となりました。その後、リグコンの設定を復旧することができ、ISS FM レピーターなどを用いてキャンプ期間中運用を行うことができました。

観光をする時間も十分に設けられていました。

IOTA 運用を行った Krk 島では、アドリア海で水泳を行う時間が確保されていました。SOTA を行った 3 日目には首都ザグレブ市内を現地のガイドの方の案内付きで観光をし、旧市街を回ったのちニコラ・テスラ技術博物館などを訪問しました。4 日目にはキャンプ地のカルロヴァツ市街を散策したのちに近くの山の古城に移動して COTA 運用を楽しみました。

筆者は初日から二日目にかけて長時間のフライトで大変疲弊しており、2 日目の IOTA 移動運用に関して欠席と Hostel 待機をして一日休んで体力を回復する時間を貰えないか交渉したことがありました。主催側からは少ない人員でキャンプを主催しているために Hostel 待機の付き添いのために割く人員がおらず、欠席は認められないため絶対に参加するようにと言われ、ふらふらになりながら二日目のプログラムに参加したということもありました。結果的にその日のプログラムは大変印象的なもので参加してよかったかつ、睡眠を細切れに取ることで体調も回復しましたが、慣れない地で無理をしすぎて感染症等に罹患することがとても怖かったですし、体調管理にキャンプを通して敏感になった出来事でした。キャンプの夜には天体観測や映画鑑賞など様々な交流イベントが企画されていましたが、意識して睡眠を取り、全ての交流イベントには参加できませんでした。

Train the Trainer

TTT とは Train the Trainer の略称で、直訳の通り指導者を育成するノウハウをキャンプ参加者間で共有し合うプログラムです。全キャンプ期間にわたり毎日開催され、各チームが自国で開催した活動に

ついてプレゼンを行ったり、グループワークを行って年少者や初心者アマチュア無線をリーチする方法を話し合ったりする時間がありました。各チームのプレゼンに関しては各発表後には多くの質問が活発に飛び交いととても刺激的でした。印象に残ったのはフィンランドチームの発表です。小学生を対象にしたキャンプを YOTA フィンランド主導で行い、電子工作やライセンスフリーやアマチュア無線の体験制度を利用した交信体験、ARDF などを企画し実際に開催して好評を得たという報告はとても興味深いものでした。また、イタリアチームはコロナウイルスによる規制が緩和されたタイミングで行ったコンテスト参加について発表していました。ビッグガンの OM からシャックを借り、企業を回ってスポンサーを集め、若者参加者をまとめてコンテストチームを組織した発表はとても欧州の若手のガッツを感じるものでした。

私たち日本チームは 2021 年と 2022 年にわたって企画開催したオンラインイベント、わかものハムの集いについて発表を行い、いまだ新型コロナウイルスの余波が残る日本でのオンラインイベントの開催ノウハウについて、また私たちのイベントの特色について発表することができました。

Intercultural evening

Intercultural evening はこの国際的なキャンプにおいて、各国参加者が自分の国を紹介する象徴的なイベントです。

キャンプ初日の夜に開催され、各チームが一言ずつ自国の紹介を行ったのちに持ち寄った軽食等を提供し合います。日本チームはラーメンや抹茶のチョコレートなどを持ち込み好評を博しました。(国紹介の時間がかかなり長引きお湯が冷めてしまったのは想定外でしたので、もし麺類を提供するなら素麺などの冷たいものが良かったとは思いました)

即興で開いた箸の使い方講座も好評で、一夜にして多くの参加者と知り合いになることができました。日本からは自分たちの QSL カードを多数持ち寄ったのですが、このときにほとんど配布してしまい、帰国のハムフェアで配布するためのカードが無くなってしまったのは良い思い出です。しかし、日本チームは二人だけでブースにひっきりなしに来る方を案内していたので、気がついたら自分たちが他の国のテーブルを回る時間がそんなに取れなかったのが心残りでした。アルジェリアチームの砂糖菓子や、ヨーロッパの各国が似たようなチーズや肉製品を持ち寄っているのに、実際に食べさせてもらって個性が感じられたことが印象に残っています。

まとめ

今回のキャンプで印象に残っているのは同世代の若手がガッツに満ち溢れており、お互いに刺激し合う姿でした。

皆、アマチュア無線という枠にとらわれず、例えば SDR トランシーバーと PC の連携が不調の際にはネットワークの知識のあるものが再構築を買って出ていたりしました。また、リモート運用や衛星などこのキャンプで体験できることに全力で取り組む姿勢に自分たちもとても影響を受けました。キャンプ内の Discord サーバーでは色々な通知が期間中飛び交っており、前庭で 70MHz 帯の運用実験をするから是非集合！だとか、430MHzSSB で CQ を出すからスケジュール QSO をしようとか、部屋に DMR のホットスポットを作成したのでぜひアクセスしてください周波数は～といった連絡が飛び交っていました。

また、常にハンディ機を持ち歩いており、VOX で APRS を試したり、移動中のバスの車内で誰かが

FMでSSTVを送信し始めると皆が応答して賑やかになったりといった楽しいエピソードもありました。

キャンプで出会った友人とはいまだにこのキャンプのDiscordサーバーやWhatsApp, Twitterなどで交流が続いています。技術的な話題はもちろん、スケジュールQSOの提案や雑談も活発です。これほど同年代のハムが一同に介して共同で過ごし親睦を深めた機会は過去に自分が日本で経験したことがなく、掛け替えのない経験となりました。このキャンプで得た経験をこれからのYOTA JAPANでの活動や自分自身の趣味の活動に還元していきたいと思います。また、ヨーロッパ、アメリカのYOTAキャンプの活動を、YOTAキャンプ自体が未だ存在しないアジア太平洋地域で将来的に開催する参考にし、ウィズコロナ、アフターコロナの時代を見据えて近い将来に日本でリージョン3のYOTAキャンプを開催、またそれに向けたアジア太平洋地域の若者ハムの組織化、オンラインミーティングの開催などに向けて主導していきたいと強く考えるようになりました。

また、欧州、中米の同世代の若手ハムと交流し、彼らのアクティブで楽しそうに活動する姿とガッツに満ち溢れた姿勢から刺激を受けました。

この貴重な機会を提供してくださったIARU Youth Working Group、クロアチアアマチュア無線連盟、そしてサポートをしてくださったYOTA JAPANの皆様に感謝します、ありがとうございました。

公開用

企画委員会 2022 年活動報告書

2023 年 1 月 22 日

YOTA Japan 企画委員会

下記の通り、企画委員会の 2022 年の活動を報告します。

記

1 企画委員会の概要

未来を担うわかもの主体で、わかものならではの視点でイベントを企画・実施することで、アマチュア無線の振興につなげる。

企画委員会主催で年 1 回程度、YOTA JAPAN 外向けオンラインイベントである「わかものハムの集い」を実施する。月 1 回程度委員会を実施し、わかものハムの集いに向けての準備・ディスカッションを行う。

ハムフェア、関西ハムフェアなどの外部イベントにも積極的に出展し、わかもの活動のアピールをする。

2 2022 年の活動内容

【わかものハムの集い】

日 時：2022/10/15

参加者：20 名程度

場 所：オンライン (Zoom および YouTube)

わかもの発信、交流、議論の場を提供することを目的とし、オンライン上で、わかものによる発表会、懇親会を実施した。Zoom 上で画面共有をしながら発表していただいた。若手無線家のアクティブな活動を同世代、そして OM さん方に向けて発表、アピールすることができた。

3 2023 年の活動予定

【わかものハムの集い】

わかもの発信、交流、議論の場を提供することを目的とし、オンライン上で、わかものによる発表会、懇親会を実施する。

現在、参加者減少、企画の固定化、運営のリソース不足などの問題を抱えている。来年もわかものハムの集いをよりわかものハムの活動を効果的に盛り上げられるような企画にする。合同委員会を開いたりして、企画内容などについてディスカッションし、企画を考えている。

以上

公開用

技術委員会 2022 年活動報告書

2023 年 2 月 5 日

YOTA Japan 技術委員会

下記の通り、技術委員会の 2022 年の活動を報告します。

記

1 技術委員会の概要

技術委員会はわかものハムの技術的関心を喚起することを目的としている。共同設計や制作、情報共有など、YOTA Japan における技術的な交流を行う。目下の活動として定期的な交流会の開催を行っている。

2 2022 年の活動内容

【第一回 YOTA Japan 技術委員会】

日 時:4 月 22 日 21 時～

参加者:11 名

場 所:Zoom

各委員の交流を目的として、自己紹介や各自の興味のある範囲について討論を行った。

【第二回 YOTA Japan 技術委員会】

日 時:5 月 29 日 10 時～

参加者:4 名

場 所:Zoom

最近ホットな技術話題の共有を目的として、JR2KHB より、「USB オーディオデバイスチップによる PTT 制御」について講演いただいた。

【第三回 YOTA Japan 技術委員会】

日 時:7 月 8 日 21 時～

参加者:4 名

場 所:Zoom

最近ホットな技術話題の共有を目的として、JE6VHE より「5.6GHz オフセットパラボラアンテナ」について講演いただいた。

3 2023 年の活動予定

YOTA Japan 技術委員会を1～2ヶ月に一回程度を目標として、定期的に行い、各委員の交流やホットな技術の共有を行う。

以上

基礎・戦略委員会 2022 年活動報告書

2023 年 2 月 4 日

YOTA Japan 基礎・戦略委員会

下記の通り、2022 年における基礎・戦略委員会の活動を報告します。

記

1 基礎・戦略委員会の概要

基礎・戦略委員会は、アマチュア無線の社会的側面を扱い、現代社会におけるアマチュア無線の役割や、電波政策などに関する研究や提言を行う委員会である。また、行政からの意見公募(パブリックコメント)に対する意見提出も、基礎・戦略委員会が取りまとめて実施している。

2 2022 年の活動内容

《パブリックコメント関連》

1. 『2023 年世界無線通信会議(WRC-23)に向けた我が国の考え方(案)にかかる意見募集』に対する意見提出

2022 年 5 月 31 日付けで意見募集された、『2023 年世界無線通信会議(WRC-23)に向けた我が国の考え方(案)にかかる意見募集』に対し、アマチュア無線に係る周波数割当に関する部分について、YOTA Japan から 6 月 30 日付けで意見提出を行った。

また、意見提出のために専門家を交えた勉強会も行い、委員の見識を深めた。

提出した意見の全文は、別紙 1 の通り。

参考

総務省 | 報道資料 | 2023 年世界無線通信会議(WRC-23)に向けた我が国の考え方(案)にかかる意見募集(2022 年 5 月 31 日付)

https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban10_02000039.html

2. 『ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用等に係る制度改正案に対する意見募集』に対する意見提出

令和 4 年 11 月 16 日付で意見募集された、『ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用等に係る制度改正案に対する意見募集』に対し、全面的に賛成する旨の意見を、YOTA Japan から 12 月 16 日付で提出した。提出した意見の全文は、別紙 2 の通り。

なお、この意見募集に至るまでの経緯の中で、2021年11月19日、内閣府規制改革推進会議の第4回経済活性化ワーキング・グループの会合において YOTA Japan として JQ2GYU 櫻井豊氏(現理事)が行った提言が重要な論旨を占めており、またその提言の内容がおおむね制度改正案に盛り込まれたことは、YOTA Japan として特筆すべき成果である。

参考

- 総務省 | 報道資料 | ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用等に係る制度改正案に対する意見募集(2022年11月16日付)
https://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01kiban14_02000567.html
- 第4回 経済活性化ワーキング・グループ 議事次第：規制改革 - 内閣府(2021年11月19日、YOTA Japan の提言は資料4-1)
<https://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kisei/meeting/wg/econrev/211119/agenda.html>

3. ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線制度改正についての公開討論会

前述の『ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用等に係る制度改正案に対する意見募集』を踏まえ、2022年12月4日、YouTube Live での公開討論会を開催した。有識者と若手を交えて、2時間にわたり、制度改正案の内容や意図、制度改正に至る背景などを解説し、またどのような意見提出が可能か、今後どのようなアクションが必要か、検討、議論を行った。登壇者は、JQ2GYU 櫻井豊氏、JJ1WTL 本林良太氏、JI1TMD、JF1XMN、JR2KHB。

また、YouTube の統計によれば、配信当日に146名、配信後のアーカイブ視聴も含めれば合計300名以上(2023年2月3日15時現在、ユニーク視聴者数)が、この討論会を視聴したとみられる。

参考

【YOTA Japan】ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線制度改正についての公開討論会 - YouTube(2022年12月4日)

<https://www.youtube.com/live/Jk0WzsUmMtw>

《その他の活動》

1. 周波数割り当て政策に関する論文翻訳作業の受注

2022年5月10日付で、一般財団法人マルチメディア振興センターより周波数割り当て政

策に関する論文翻訳作業を有償で受注し、本委員会が担当した。

2. 第4回わかものハムの集いにおける発表

2022年10月15日、第4回わかものハムの集い(企画委員会)において、JF1XMNが、『アマチュア無線の今後をどのようにディスカッションしていくべきか』の題でプレゼン発表を行い、本委員会の提言する「きっかけとしてのアマチュア無線」の広がりに向け、体験局制度の拡充を例に、検討すべき論点を示した。

3 2023年の活動予定

上述の通り、2022年の基礎戦略委員会は、その存在意義に基づき、アマチュア無線のあるべき姿を社会に対して発信し、アマチュア無線の維持発展に向けて一定の価値提供が実現できたと考える。とりわけ、アマチュア無線を、ワイヤレス人材育成のプラットフォーム(きっかけ)と位置づけ、アマチュア無線の価値の再定義に寄与したことは、評価に値すると考える。

一方で、アマチュア無線の価値の再定義においては、ワイヤレス人材の枠に留まらず、より広義の観点でアマチュア無線の可能性や価値を定義していくことが必要となる。また、定義づけのみならず、その整理の妥当性検証や、対外的な発信も重要となる。

以上の認識に基づき、以下の通り活動予定を整理する。ただし、下記活動予定は2022年委員会としての考えであり、2023年においてはその是非も含めて検討する必要がある。

● アマチュア無線の可能性や価値の再定義

2022年の活動では、ワイヤレス人材としてのアマチュア無線の価値については、社会に対して一定程度発信することができた。一方で、ワイヤレス人材育成観点到留まらず、さらに広義の観点で、アマチュア無線の価値をとらえることで、よりアマチュア無線の社会的プレゼンスを高めることにつなげると考える。具体的には、国際交流や他分野連携(教育、福祉など)の観点からも、アマチュア無線の価値を見つめ、それらを体系立てて、総合的なパッケージとして全体像を示すことを目指すものである。2023年上期において全体像に必要な観点を洗い出し、下期までに全体像の骨子を整理する。

● アマチュア無線の価値に関するエミネンスの向上

アマチュア無線の持続的発展のためには、社会からより認知され、趣味としてのアマチュア無線の脱却し、社会的意義のあるアマチュア無線としての認知(エミネンス)を高めることが必要である。そのために、ソーシャルメディア等を活用し、アマチュア無線を趣味とする人以外への対外的な発信の具体的な方策を検討、実施する。

以上

別紙1

『2023年世界無線通信会議(WRC-23)に向けた我が国の考え方(案)にかかる意見募集』に対して提出した意見の全文(2022年6月30日提出)

総務省 総合通信基盤局 電波部 電波政策課
国際周波数政策室 御担当者様

2023年世界無線通信会議(WRC-23)に向けた我が国の考え方(案)について、議題 1.2、議題 1.12、議題 9.1 b) のそれぞれに関し、アマチュア業務の十分な保護を確保するべく、以下のように要望いたします。

〈議題 1.2『3 300-3 400 MHz、3 600-3 800 MHz、6 425-7 025 MHz、7 025-7 125 MHz 及び 10.0-10.5 GHz 帯の IMT への特定の検討』について〉

10GHz 帯の IMT への特定の検討を支持しないよう要請する。

WRC-19 の決議 235 にあるように、IMT はあくまで世界共通で調和した割当を望んでいるが、本議題の第二地域限定ではそれは達成されない。また、いずれかの時点で、他地域も同様の検討対象となれば、日本で一次業務の放送事業者の通信(固定、移動)と、レーダーへ多大な影響を及ぼすことは自明である。当初は一次だったアマチュア業務も、後の譲歩で二次に降りたが、決議 235 の considering k), l) および recognizing c) では現役業務(二次業務も含めて)として、干渉など悪影響から保護されるべき対象に含まれる。アマチュア業務と、アマチュア衛星業務は、10GHz 帯で世界的に運用されており、また今後の発展も期待される。特に、アマチュア衛星の大半は周回衛星であり、仮に議題 1.2 のとおり第二地域限定で特定されたとしても、衛星運用上世界的な悪影響を受ける。また、アマチュア業務の地上通信では、他の業務と比べて非常に弱い電波を受信する長距離通信や、伝搬研究などが盛んであり、これらの業務は世界的に 10.0～10.3GHz が用いられる。

これらを総合すると、10GHz 帯 IMT 特定の検討は第二地域限定(日本はじめ第三地域は対象外)だが、賛成するには問題が多い。

〈議題 1.12『45 MHz 帯衛星搭載レーダーサウンダーのための地球探査衛星業務(能動)への新規二次分配のための検討の実施』について〉

45 MHz 帯衛星搭載レーダーサウンダーに関して、Rec. ITU-R RS.2042-1 によると送信帯域は 10MHz(受信帯域は中間周波数レベルで 12MHz)となつてはいるが、実際にはその 10MHz の帯域外にも相当に強い電力密度のあるスペクトルで送信されるようであり、隣接帯域への干渉が懸念される。隣接する 50MHz 帯のアマチュア業務(現存業務)では、特にバンド下端(50.0-50.5 MHz)付近で電離層反射や異常伝搬を活用した遠距離通信が行われている。このような通信では他の業務と比べて微弱な信号を使用するので、レーダーサウンダーは地域限定で間欠運用とはいえ、アマチュア業務の十分な保護に関しては、特段の配慮が必要である。新規分配可能性の検討段階においては、ITU に対してアマチュア無線界の総意を代表する国際アマチュア無線連合(International Amateur Radio Union:IARU) の十分な関与を保証して、アマチュア業務の保護の程度が十分であるという確証が得られるように要望する。

〈議題 9.1 b)『1 240-1 300 MHz 帯におけるアマチュア業務及びアマチュア衛星業務の分配の見直し』について〉

WRC-19 決議 774 に従い RNSS 受信局の保護措置を検討するにあたっては、その基礎となるアマチュア業務の運用実態のデータが現実に対応したものであることが決定的に重要である。そのため、関連する検討、議論に際しては、ITU-R のワーキングパーティー 5A や 4C はじめとするあらゆる場面において、ITU に対してアマチュア無線界の総意を代表する国際アマチュア無線連合(International Amateur Radio Union:IARU) の積極的な関与を保証し、干渉の程度の計算などが最大限に正確であることを確認させることを要請する。

また、これまで実際にアマチュア業務による干渉が報告された例は数少なく、現実にはアマチュア業務は一次業務との共存を成功させてきた。さらに、我が国をはじめ、いくつかの国では既に減力、限定的な一時停波などの措置によって一次ユーザーの保護が実現している。追加措置が必要となる場合でも、その国や地域の実情に応じた対応によって、過剰制約とならないことが、措置の正当化や業務の共存の面で重要である。そのため、本件調査がいずれ結論づけるであろう追加措置は、Radio Regulations(無線通信規則)による一律な規制ではなく、勧告によって対処し、各国で具体化して実施するのが妥当と考える。

別紙2

『ワイヤレス人材育成のためのアマチュア無線の活用等に係る制度改正案に対する意見募集』に対して提出した意見の全文(2022年12月16日提出)

改正の趣旨および改正案に賛成いたします。

さらに、アマチュア無線を通じたワイヤレス人材育成を、持続的かつ効果的に達成するために、以下の二点を、今後の制度改正に向けての要望といたします。

1. 自作無線機、海外無線機の使用に関する制度

今回の改正によって、より多くのワイヤレス人材の「卵」がアマチュア無線に触れ、またアマチュア無線を実験や研究のプラットフォームとして活用することが期待されます。そこで、そういった方々が、実験・研究にチャレンジやすくなるための取り組みとして、例えば自作機や海外の最新無線機を使用する際の手続きについて、一定の範囲内での制度緩和や簡易化を行うことは、たいへん有効であると考えられます。

2. 外国のアマチュア無線従事者、アマチュア無線局が、日本で運用する場合の制度

アマチュア無線の重要な性格である国際性は、グローバル・ボーダレス化が進む 21 世紀において、人材育成の面でも極めて重要な要素です。

現行制度では、例えば、アマチュア無線局を外国で開設されている方であっても、日本ではその無線局免許に基づいて運用することができません。一方、多くの先進諸国においては、外国からの来訪者であっても自国の免許に基づいた運用が可能であり、日本の無線局免許があれば特段の手続き無しで運用できる国も数多くあります。こうした不平等、不条理な状態が、例えば国際的なイベントなどの場面における、アマチュア無線を通じた効果的な国際交流を阻害しています。

国際的に通用するワイヤレス人材の育成のため、アマチュア無線を通じた国際交流を促進する制度改正を期待します。

公開用

広報委員会 2022 年活動報告書

2023 年 1 月 29 日

YOTA Japan 広報委員会

下記の通り、広報委員会の 2022 年の活動を報告します。

記

1 広報委員会の概要

SNS やイベントなどで YOTA Japan 及びアマチュア無線に関する広報活動を行い、各委員会と連携して対外的にアピールする。

不定期に委員会を開催し、広報活動の打ち合わせを行う。また、広報のやり方に関する勉強会なども行い、技術の向上に努める。

2 2022 年の活動内容

【YOTA Japan チラシ制作】

YOTA Japan 法人化に伴ってイベントで配布するチラシが必要になったため、4 枚のチラシ（活動概要紹介、イベント紹介、第 4 回わかものハムの集い開催告知、無線初心者の手引き）を制作した。各委員が作成したデザイン素案を元に Adobe Illustrator を使用し作成。プリントパックにて印刷。

【関西アマチュア無線フェスティバル 2022】

日 時：2022 年 7 月 16 日、17 日

場 所：大阪府池田市 池田市民文化会館

YOTA Japan の認知度向上のため、コロナ禍以降初となる関西アマチュア無線フェスティバルに参加した。「ハムのラジオ」との共同ブースで、2 日間で 100 人程度の方に YOTA Japan を紹介することができた。会場で興味を持ち入会した方もおり、活動をアピールすることができた。

【お手軽デザイン講座】

日 時：2022年7月30日

参加者：6人程度

場 所：zoom

広報活動を行う中でデザインスキルを求められる場面があるため、デザイン経験者である広報委員長が zoom を用いて初心者向けのデザイン講座を開催した。広報以外の委員会からも参加があり、大きな反響を得た。

【ハムフェア 2022】

日 時：2022年8月20日、21日

場 所：東京都江東区 東京ビッグサイト

YOTA Japan の認知度向上のため、コロナ禍以降初となるハムフェアに参加した。「ハムのラジオ」との共同ブースで、2日間で150人程度の方に YOTA Japan を紹介することができた。会場で興味を持ち入会した方もおり、活動をアピールすることができた。

【YOTA Japan QSL カード制作】

8N2YOTA の運用開始に伴って必要になったため、QSL カードを制作した。Adobe Illustrator を使用し作成。グラフィックにて印刷。

3 2023年の活動予定

【定例委員会】

月1回程度、活動内容についてオンラインでミーティングを行う。

【ハムフェア系イベント参加】

YOTA Japan の認知度向上のため、ハムフェア系イベントに出展し活動をアピールする。

以上

令和4年度決算書

一般社団法人Youngsters on the Air Japan

1 貸借対照表

令和4年12月31日現在

(単位：円)

| 科 目 | 当年度 | 前年度 | 増 減 |
|----------------|---------|-----|---------|
| I 資産の部 | | | |
| 1 流動資産 | | | |
| 現金預金 | | | |
| 現金 | 11,767 | 0 | 11,767 |
| 預金 | 399,974 | 0 | 399,974 |
| 流動資産合計 | 411,741 | 0 | 411,741 |
| 2 固定資産 | | | |
| (1) 基本財産 | | | |
| (2) 特定資産 | | | |
| (3) その他固定資産 | | | |
| 固定資産合計 | 0 | 0 | 0 |
| 3 繰延資産 | | | |
| 創立費 | 0 | 0 | 0 |
| 開業費 | 0 | 0 | 0 |
| 繰延資産合計 | 0 | 0 | 0 |
| 資 産 合 計 | 411,741 | 0 | 411,741 |
| II 負債の部 | | | |
| 1 流動負債 | | | |
| 未払法人税等 | 92,500 | 0 | 92,500 |
| 流動負債合計 | 92,500 | 0 | 92,500 |
| 2 固定負債 | | | |
| 負 債 合 計 | 92,500 | 0 | 92,500 |
| III 正味財産の部 | | | |
| 1 指定正味財産 | 0 | 0 | 0 |
| (うち、特定資産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| 2 一般正味財産 | 319,241 | 0 | 319,241 |
| (うち、特定資産への充当額) | (0) | (0) | (0) |
| 正味財産合計 | 319,241 | 0 | 319,241 |
| 負債及び正味財産合計 | 411,741 | 0 | 411,741 |

2 正味財産増減計算書

令和4年3月1日から令和4年12月31日まで

(単位：円)

| 科目 | 当年度 | 前年度 | 増減 |
|---------------|---------|-----|---------|
| I 一般正味財産増減の部 | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | |
| (1) 経常収益 | | | |
| 受取会費 | | | 0 |
| 若者会費 | 15,349 | 0 | 15,349 |
| 賛助会員 | 537,416 | 0 | 537,416 |
| 事業収益 | | | 0 |
| 翻訳事業収入 | 246,400 | 0 | 246,400 |
| 経常収益計 | 799,165 | 0 | 799,165 |
| (2) 経常費用 | | | |
| 事業費 | | | 0 |
| 通信運搬費 | 14,534 | 0 | 14,534 |
| 広告宣伝費 | 90,311 | 0 | 90,311 |
| 支払手数料 | 1,060 | 0 | 1,060 |
| YOTAキャンプ研修費 | 60,000 | 0 | 60,000 |
| 諸会費 | 8,800 | | |
| 創立費償却費 | 131,550 | | |
| 開業費償却費 | 75,369 | 0 | 75,369 |
| 経常費用計 | 381,624 | 0 | 381,624 |
| 当期経常増減額 | 417,541 | 0 | 417,541 |
| 2. 経常外増減の部 | | | |
| (1) 経常外収益 | | | |
| 経常外収益計 | | | |
| (2) 経常外費用 | | | |
| 経常外費用計 | | | |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 |
| 税引前一般正味財産増減額 | 417,541 | 0 | 417,541 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 98,300 | 0 | 98,300 |
| 当期一般正味財産増減額 | 319,241 | 0 | 319,241 |
| 一般正味財産期首残高 | 0 | 0 | 0 |
| 一般正味財産期末残高 | 319,241 | 0 | 319,241 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | |
| (1) 収益 | | | |
| 収益計 | | | |
| (2) 費用 | | | |
| 費用計 | | | |
| 当期指定正味財産増減額 | | | |
| 指定正味財産期首残高 | | | |
| 指定正味財産期末残高 | | | |
| III 正味財産期末残高 | 319,241 | 0 | 319,241 |

財務諸表に対する注記

2 重要な会計方針

(1)公益法人会計基準(平成20年4月11日・内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(2)消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式により処理している。

2 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の保有はない。

3 特定資産の財源等の内訳

特定資産の保有はない。

4 引当金計上の内訳

引当金の計上はない。

5 創立費・開業費の一括償却

本年度で一括償却とした。

附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

該当なし。

2. 引当金の明細

該当なし。

財 産 目 録

令和4年12月31日現在

(単位：円)

| | | 場所・物量等 | 使用目的等 | 金額 |
|---------|-----|-----------------|--------------------|---------|
| (流動資産) | | | | |
| | 現金 | 手許保管 | 公益目的事業の運転資金として | 11,767 |
| | 預金 | 普通預金 住信SBIネット銀行 | 公益目的事業の運転資金として | 27,607 |
| | | 普通預金 ゆうちょ銀行 | 公益目的事業の運転資金として | 137,960 |
| | | 普通預金 PayPal | 公益目的事業の運転資金として | 234,407 |
| 流動資産合計 | | | | 411,741 |
| (固定資産) | | | | |
| 固定資産合計 | | | | |
| 資 産 合 計 | | | | 411,741 |
| (流動負債) | | | | |
| | 未払金 | 静岡県法人県民税 | 均等割・法人割 R4.4-R4.12 | 16,000 |
| | | 裾野市法人市民税 | 均等割・法人割 R4.4-R4.12 | 39,600 |
| | | 法人税 | R4年法人税 収益事業分 | 36,900 |
| 流動負債合計 | | | | 92,500 |
| (固定負債) | | | | |
| 固定負債合計 | | | | |
| 負 債 合 計 | | | | 92,500 |
| 正 味 財 産 | | | | 319,241 |

公開用

2023 年定時社員総会 第 3 号議案

2023 年 2 月 12 日

社 員 各 位

一般社団法人 Youngsters on the Air Japan
代表理事 須田 璃久

理事の選任について

下記の通り、現職の理事が 1 名辞任するため、新しい理事を 1 名選任します。選任に関して、定款第 21 条、第 27 条の規定に基づき、2023 年定時社員総会での承認決議をお願い致します。

記

選 任 JIITMD 波部 賢人 氏（正会員）

選任理由

基礎・戦略委員会での活動をはじめとする YOTA Japan での顕著な活躍に鑑み、次世代の YOTA Japan を率いるにふさわしい人物と認められるため。

以上

公開用

2023年定時社員総会 第1・2号報告

2023年2月12日

社員各位

一般社団法人 Youngsters on the Air Japan
代表理事 須田 璃久

2023年事業計画および予算

下記の通り、2023年に行う予定の事業および2023年の予算を報告します。

記

1. 2023年事業計画(第1号報告)

《2023年に実施予定の主な事業一覧》

- | | |
|-----------|--|
| 1月27日 | YOTA Japan 新年会(実施済み)【企】 |
| 8月19～20日 | アマチュア無線フェスティバル(ハムフェア)出展【広】 |
| 10月29～31日 | CQ World Wide DX Contest SSB 部門(YOTA Japan が盾をドネーション)【運】 |
| 11月26～28日 | CQ World Wide DX Contest CW 部門(YOTA Japan が盾をドネーション)【運】 |
| 12月中 | December YOTA Month 参加【運】 |
| 日程未定 | わかものハムの集い【企】 |

《運営委員会》

2022年に引き続き、記念局 8N2YOTA を用いた PR 運用や December YOTA Month への参加を行い、若者への楽しいアマチュア無線運用の機会を提供し、若者自身のアマチュア無線活動や YOTA Japan 活動への参画に対するモチベーションアップを目指す。

また、CQ World Wide DX Contest へのドネーションや、欧州 YOTA との連携を引き続き進めていき、YOTA Japan が世界の中で「若者アマチュア無線家の組織」としてのポジションを確立できるよう、引き続き努めていく。

《企画委員会》

わかものハムの集い

わかものハムの発信、交流、議論の場を提供することを目的とし、オンライン上で、わかものに

よる発表会、懇親会を実施する。

現在、参加者減少、企画の固定化、運営のリソース不足などの問題を抱えている。来年もわかものハムの集いをよりわかものハムの活動を効果的に盛り上げられるような企画にする。合同委員会を開いたりして、企画内容などについてディスカッションし、企画を考えている。

《技術委員会》

YOTA Japan 技術委員会を1～2ヶ月に一回程度を目標として、定期的に行い、各委員の交流やホットな技術の共有を行う。

《基礎・戦略委員会》

2022 年の基礎戦略委員会は、その存在意義に基づき、アマチュア無線のあるべき姿を社会に対して発信し、アマチュア無線の維持発展に向けて一定の価値提供が実現できたと考える。とりわけ、アマチュア無線を、ワイヤレス人材育成のプラットフォーム(きっかけ)と位置づけ、アマチュア無線の価値の再定義に寄与したことは、評価に値すると考える。

一方で、アマチュア無線の価値の再定義においては、ワイヤレス人材の枠に留まらず、より広義の観点でアマチュア無線の可能性や価値を定義していくことが必要となる。また、定義づけのみならず、その整理の妥当性検証や、対外的な発信も重要となる。

以上の認識に基づき、以下の通り活動予定を整理する。ただし、下記活動予定は 2022 年委員会としての考えであり、2023 年においてはその是非も含めて検討する必要がある。

● アマチュア無線の可能性や価値の再定義

2022 年の活動では、ワイヤレス人材としてのアマチュア無線の価値については、社会に対して一定程度発信することができた。一方で、ワイヤレス人材育成観点到留まらず、さらに広義の観点で、アマチュア無線の価値をとらえることで、よりアマチュア無線の社会的プレゼンスを高めることにつなげると考える。具体的には、国際交流や他分野連携(教育、福祉など)の観点からも、アマチュア無線の価値を見つめ、それらを体系立てて、総合的なパッケージとして全体像を示すことを目指すものである。2023 年上期において全体像に必要な観点を洗い出し、下期までに全体像の骨子を整理する。

● アマチュア無線の価値に関するエミネンスの向上

アマチュア無線の持続的発展のためには、社会からより認知され、趣味としてのアマチュア無線の脱却し、社会的意義のあるアマチュア無線としての認知(エミネンス)を高めることが必要である。そのために、ソーシャルメディア等を活用し、アマチュア無線を趣味とする人以外への対外的な発信の具体的な方策を検討、実施する。

《広報委員会》

定例委員会

月1回程度、活動内容についてオンラインでミーティングを行う。

ハムフェア系イベント参加

YOTA Japan の認知度向上のため、ハムフェア系イベントに出展し活動をアピールする。

2. 2023年予算報告(第2号報告)

別紙の通り、2023年の予算を報告する。

以上

2023 年度 収支予算書

一般社団法人Youngsters on the Air Japan

(収入の部)

<単位：円>

| 科目 | 摘要 | 本年度予算 | 前年度予算 | 増減 |
|------|----------------|---------|---------|-----------|
| 会費収入 | 正会員・准会員・ユース正員他 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| | 特別会員 | 50,000 | 50,000 | 0 |
| | 賛助会員 | 200,000 | 400,000 | ▲ 200,000 |
| 繰越金 | | 320,000 | | 320,000 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 収入合計 | | 590,000 | 470,000 | 120,000 |

(支出の部)

<単位：円>

| 科目 | 摘要 | 本年度予算 | 前年度予算 | 増減 |
|------|------------------------|---------|---------|-----------|
| 設立費用 | 定款の謄本・法務局登記費用他 | 0 | 130,000 | ▲ 130,000 |
| | 設立準備費用 | 0 | 80,000 | ▲ 80,000 |
| 運営費 | 社団局開局申請料×2局 | 0 | 6,000 | ▲ 6,000 |
| | 電波利用料(5年分)×2局 | 0 | 3,000 | ▲ 3,000 |
| | JARL会費(1年分)・入会金 | 7,000 | 12,000 | ▲ 5,000 |
| | QSLカード転送料 | 0 | 11,000 | ▲ 11,000 |
| | QSLカード印刷代金 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| | WWコンテストドナー(盾代)US\$ 130 | 20,000 | 20,000 | 0 |
| | ハムフェア出展関係費用 | 20,000 | 30,000 | ▲ 10,000 |
| | 資料印刷費用 | 10,000 | 20,000 | ▲ 10,000 |
| | YOTAキャンプ研修費補助 | 60,000 | | 60,000 |
| | 郵送費・発送費 | 15,000 | 10,000 | 5,000 |
| | 消耗品費 | 5,000 | 20,000 | ▲ 15,000 |
| | 交通費 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| | 雑費 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| | 振込料・支払手数料 | 5,000 | 5,000 | 0 |
| | 修繕費 | 10,000 | 10,000 | 0 |
| | 法人県民税・市民税 | 71,000 | 0 | 71,000 |
| 予備費 | | 327,000 | 73,000 | 254,000 |
| | | | | |
| 支出合計 | | 590,000 | 470,000 | 120,000 |